

一様確率収束について

鈴木雪夫

(1964年12月受付)

On Uniform Convergence in Probability

Yukio SUZUKI

Wilks [1] defined the uniform convergence in probability and gave a theorem in his celebrated book. However, in this paper we will give a counterexample in section 2 and two revised theorems in section 3. A proof is given to Theorem 1, but the proof of Theorem 2 is omitted. The results are as follows.

Theorem 1. Let $(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta), \dots)$ be a stochastic process depending on a parameter θ such that the following assumptions are satisfied:

(i) For some θ_0 and any θ in a parameter space Θ (for simplicity we assume that Θ is an open interval in the real line), $(f_1(x_1(\theta_0), \theta), f_2(x_1(\theta_0), x_2(\theta_0), \theta), \dots, f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta), \dots)$ is a stochastic process and for any positive number ε there exist $n_\varepsilon > 0$ and $\delta(\varepsilon) > 0$ such that for any $n \geq n_\varepsilon$ there holds

$$P\{|f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta) - f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0)| > \varepsilon, \\ \text{for all } \theta \in (\theta_0 - \delta(\varepsilon), \theta_0 + \delta(\varepsilon))\} < \varepsilon.$$

(ii) $f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0)$ converges to $g(\theta_0)$ in probability as $n \rightarrow \infty$.

(iii) $\theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))$ converges to θ_0 in probability as $n \rightarrow \infty$.

Then, $f_n[x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))]$ converges to $g(\theta_0)$ in probability when $n \rightarrow \infty$.

Theorem 2. Let $(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta), \dots)$ be a stochastic process depending on a parameter θ ($\in \Theta$) such that the following assumptions are satisfied:

(i) For any θ and θ' in Θ , $(f_1(x_1(\theta), \theta'), f_2(x_1(\theta), x_2(\theta), \theta'), \dots, f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta'), \dots)$ is a stochastic process which satisfies the following condition:

For any $\varepsilon > 0$, there exist n_ε and $\delta(\varepsilon) > 0$ such that for any $n \geq n_\varepsilon$ and any $\theta \in \Theta$ there holds

$$P\{|f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta') - f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta)| > \varepsilon \\ \text{for all } \theta' \in (\theta - \delta(\varepsilon), \theta + \delta(\varepsilon))\} < \varepsilon.$$

(ii) $f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta)$ converges in probability to a function $g(\theta)$ defined on Θ uniformly with respect to θ in Θ .

(iii) $\theta_n^*(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta))$ converges in probability to θ uniformly with respect to θ in Θ .

Then, as $n \rightarrow \infty$, $f_n[x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta_n^*(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta))]$ converges in probability to $g(\theta)$ uniformly with respect to θ in Θ .

§1. 序

Samuel S. Wilks の著書 *Mathematical Statistics* (1963) の 104 頁と 105 頁において、一様確率収束が定義され、一つの定理 (4.3.8) が証明されている。本論文では、その定理の反例をあげ、次に、それを修正した定理に証明を与える。

まず、順序として、一様確率収束の定義をしておく。Wilks の本の記号に沿って記述する。確率変数は x とか x_i で表わされる。基礎になる確率空間の元 ω をつけて、 $x(\omega)$ とか $x_i(\omega)$ と書くこともできるが、 ω は省略しておく。パラメータを θ で表わし、パラメータの空間を Θ とする。しかし、話を簡単にするために、 Θ としては実数空間の开区間 (θ_1, θ_2) を考える。確率変数は実数値をとるものとする。

$(x, x_1, x_2, \dots, x_n, \dots)$ を確率過程とする。

$g(x, \theta)$ は $R \times \Theta$ の上で定義された実数値をとる関数とする。ここに、 R は一次元の Euclid 空間である。

[定義] $(g(x, \theta), g(x_1, \theta), g(x_2, \theta), \dots)$ が Θ の任意の元 θ に対して確率過程であるとする。このとき、もし、任意の $\varepsilon > 0$ に対して n_i を定めて、 $n \geq n_i$ ならば、 Θ の任意の θ に対して、

$$P(|g(x_n, \theta) - g(x, \theta)| > \varepsilon) < \varepsilon$$

が成立つようにできるとき、 $g(x_n, \theta)$ は Θ で一様に $g(x, \theta)$ に確率収束するという。

確率過程を支配する確率法則が θ をパラメータとしてもつとき、この確率過程を $(x_1(\theta), x_2(\theta), x_3(\theta), \dots)$ と表わすことができる。 θ は確率空間の元ではないことに注意。

Wilks の本にある定理 (4.3.8) は次の通り。

[定理] (x, x_1, x_2, \dots) をパラメータ θ に依存する確率過程とし、次の仮定が満足されるものとする：

(i) 確率過程 $\{f_n(x_1, \dots, x_n, \theta) \ n=1, 2, \dots\}$ は Θ で定義された連続関数 $g(\theta)$ に Θ の θ に関して一様に確率収束する。

(ii) 確率過程 $\{\theta_n^*(x_1, \dots, x_n) \ n=1, 2, \dots\}$ は θ に Θ に属する θ に関して一様に確率収束する。

このとき、 $\{f_n(x_1, \dots, x_n, \theta_n^*(x_1, \dots, x_n)) \ n=1, 2, \dots\}$ は $g(\theta)$ に確率収束する。

§2. 反例

本節では、前節で述べた定理の反例をあげる。

$x_1, x_2, \dots, x_n, \dots$ を独立で同一の分布 $N(0, 1)$ に従う確率変数例 (確率過程) とする。

$h(\theta)$ を Θ 上の関数とし、パラメータ θ に依存する確率変数 $x_i(\theta)$ を

$$(2.1) \quad x_i(\theta) = x_i - h(\theta) \quad i=1, 2, \dots$$

で定義する。明らかに $x_i(\theta)$ の分布は $N(-h(\theta), 1)$ である。 $\{x_i(\theta), i=1, 2, \dots\}$ を定理における θ に依存する確率過程と考える。

関数 $f_n(z_1, \dots, z_n, \theta) \ n=1, 2, \dots$ を次のように定義する：

$$(2.2) \quad f_n(z_1, \dots, z_n, \theta) \equiv \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n z_i + h(\theta).$$

(2.1) によると、

$$(2.3) \quad f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i.$$

従って、前節の定理の $g(\theta)$ を $\equiv 0$ とすると、(2.3) の右辺が 0 に確率収束することから、

(i) の仮定が満足されていることが分る。(ii) の仮定については、 $\theta_n^*(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta))$

が θ に一様に確率収束するものとする。以上で、仮定はすべて満足されていることになる。さて、 $h(\theta)$ を Θ の一点 θ_0 で第一種の不連続とし、 Θ の他の点では連続とする。すなわち、

$$(2.4) \quad \lim_{\theta \rightarrow \theta_0 - 0} h(\theta) < h(\theta_0) = \lim_{\theta \rightarrow \theta_0 + 0} h(\theta)$$

とする。

$\theta = \theta_0$ においては、(2.2) により、

$$(2.5) \quad \begin{aligned} f_n[x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))] \\ = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i - h(\theta_0) + h[\theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))] \end{aligned}$$

右辺の第一項は 0 に確率収束する。しかし、

$$(2.6) \quad h[\theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))] - h(\theta_0)$$

は、 $h(\theta)$ の θ_0 における不連続性のために必ずしも 0 に確率収束しないのである。(2.4) のごとく、 $h(\theta)$ が右連続のときには、

$$(2.7) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} P\{\theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0)) \geq \theta_0\} = 1$$

でない限り、(2.6) は 0 に確率収束しないのである。

以上で反例を終る。

§3. 定 理

前節の反例から想像される如く、定理の証明には関数 $f_n(z_1, \dots, z_n, \theta)$ に条件をおくことが必要である。次の定理はこの考えにもとずいている。

〔定理 1〕 $(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta), \dots)$ をパラメータ θ に依存する確率過程とし、次の仮定が満足されているとする：

(i) $\Theta = (\theta_1, \theta_2)$ の中のある θ_0 と任意の θ に対して、 $(f_1(x_1(\theta_0), \theta), f_2(x_1(\theta_0), x_2(\theta_0), \theta), \dots, f_n(x_1(\theta_0), x_2(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta), \dots))$ は確率過程となり、任意の $\varepsilon > 0$ に対して $n_\varepsilon > 0$ と $\delta(\varepsilon) > 0$ が定まり、 $n \geq n_\varepsilon$ ならば、

$$(3.1) \quad \begin{aligned} P\{|f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta) - f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0)| > \varepsilon \\ \text{for all } \theta \in (\theta_0 - \delta(\varepsilon), \theta_0 + \delta(\varepsilon))\} < \varepsilon \end{aligned}$$

を成り立たすことができる。

(ii) $f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0)$ $n=1, 2, \dots$ は $g(\theta_0)$ に確率収束する。

(iii) $\theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))$ $n=1, 2, \dots$ は θ_0 に確率収束する。

以上の仮定の下で、 $f_n[x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))]$ は $g(\theta_0)$ に確率収束する。

〔証明〕 (i) の ε の代わりに ε_1 と書くと、(i) から、任意の $\varepsilon_1 > 0$ に対し、 $n_{\varepsilon_1} > 0$ と $\delta(\varepsilon_1) > 0$ が定まり、 $n \geq n_{\varepsilon_1}$ ならば、

$$(3.2) \quad \text{事象: } \left\{ \begin{aligned} &|f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta) - f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0)| \leq \varepsilon_1 \\ &\text{for all } \theta \in (\theta_0 - \delta(\varepsilon_1), \theta_0 + \delta(\varepsilon_1)) \end{aligned} \right\}$$

の確率が $1 - \varepsilon_1$ 以上であるようにすることができる。

次に、(iii) により、任意の $\varepsilon_3 > 0$ に対して、 n_{ε_3} が定まり、任意の $n \geq n_{\varepsilon_3}$ に対して

$$(3.3) \quad \text{事象: } \{\theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0)) - \theta_0\} \leq \varepsilon_3$$

の確率を $1 - \varepsilon_3$ 以上とすることができる。

いま、特に、 $\delta(\varepsilon_1) > \varepsilon_3$ となる ε_3 をとると、 $n \geq \max(n_{\varepsilon_1}, n_{\varepsilon_3})$ なる任意の n に対して、

$$(3.4) \quad P(E_n \cap F_n) \geq 1 - \varepsilon_1 - \varepsilon_3$$

が成立つことが容易にわかる。

更に, (ii) から, $\varepsilon_2 > 0$ に対して, n_{ε_2} が存在し, $n \geq n_{\varepsilon_2}$ ならば

$$(3.5) \quad \text{事象: } \{|f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0) - g(\theta_0)| \leq \varepsilon_2\} \\ (G_n)$$

の確率が $1 - \varepsilon_2$ 以上とすることができる.

従って, $n \geq \max(n_{\varepsilon_1}, n_{\varepsilon_2}, n_{\varepsilon_3})$ ならば,

$$(3.6) \quad P(E_n \cap F_n \cap G_n) \geq 1 - \varepsilon_1 - \varepsilon_2 - \varepsilon_3$$

となることが容易にわかる. また, 次のことが得られる. すなわち, 事象 $E_n \cap F_n$ は事象

$$(3.7) \quad \{|f_n[x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))] - f_n(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_0)| < \varepsilon_1\}$$

に含まれ, また, 事象 $E_n \cap F_n \cap G_n$ は事象 (H_n とかく)

$$(3.8) \quad \{|f_n[x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0), \theta_n^*(x_1(\theta_0), \dots, x_n(\theta_0))] - g(\theta_0)| \leq \varepsilon_1 + \varepsilon_2\}$$

に含まれる. よって,

$$(3.9) \quad P(H_n) \geq 1 - \varepsilon_1 - \varepsilon_2 - \varepsilon_3$$

ここで, $\varepsilon_1, \varepsilon_2, \varepsilon_3$ はいかほど小でもよいのであるから, 定理が証明されたことになる.

定理は特定の θ_0 について述べられているが, (i), (ii), (iii) の仮定が, θ_0 だけでなく, 任意の $\theta \in \Theta$ について成立つならば,

$$f_n[x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta_n^*(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta))]$$

は, $n \rightarrow \infty$ のとき, 任意の θ について, $g(\theta)$ に確率収束する.

次の定理は前述の定理と同様のやり方で証明されるので, 定理だけを述べ, 証明を省く.

【定理 2】 $(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots)$ を θ に依存する確率過程とし, 次の仮定が満されているとする:

(i) $\Theta = (\theta_1, \theta_2)$ に属する任意の θ, θ' に対し, 確率過程 $f_1(x_1(\theta), \theta'), f_2(x_1(\theta), x_2(\theta), \theta'), \dots$ が次の条件を満すとする, すなわち, 任意の $\varepsilon > 0$ に対し, $n_\varepsilon > 0, \delta(\varepsilon) > 0$ を定めて, $n \geq n_\varepsilon$ ならば, 任意の θ に対して

$$P \left\{ \begin{array}{l} |f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta') - f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta)| > \varepsilon \\ \text{for all } \theta' \in (\theta - \delta(\varepsilon), \theta + \delta(\varepsilon)) \end{array} \right\} < \varepsilon$$

とならしめうる.

(ii) $f_n(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta) \ n=1, 2, \dots$ は Θ 中の θ に関して一様にある $g(\theta)$ (Θ 上で定義された) に確率収束する.

(iii) $\theta_n^*(x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta))$ は Θ の θ に関して一様に θ に確率収束する.

このとき, $f_n^*[x_1(\theta), x_2(\theta), \dots, x_n(\theta), \theta_n^*(x_1(\theta), \dots, x_n(\theta))]$ は, $n \rightarrow \infty$ のとき, $g(\theta)$ に一様確率収束する.

統計数理研究所

参 考 文 献

- [1] Wilks, S. S.: *Mathematical Statistics*, John Wiley and Sons, New York, 1963 (Second Printing with Corrections) pp. 104-105.